

外国人が多く住んでいる名古屋市港区・東海学区で自主防災会長を務める早川澄男さん。これまでのあるある(45・46号)にも、外国人を巻き込んだ地域の防災力を高める取り組みについて、熱い思いを語っていただきました。キーワードは「顔の見えるつながり」でした。2009年12月、学区内の九番団地にある保育園のクリスマス会と一緒に、防災イベントも行われるということで、あるある編集委員もエプロン持参でイベントに参加してきました!

これまでの流れ

東海学区の約半分が九番団地の住民で、そのうちの4割が外国人

外国の人を放っておいては防災力は向上しない



2005年

防災訓練に外国人はほとんど参加なし

どうしたら参加してもらえんだろうか...



2006年

学区の防災訓練会場を九番団地にしたことで外国人の参加者が30名に

日本語教室に参加して顔の見える関係作りだ!



2007年

団地内の日本語教室の人や保育園の先生に声かけを頼んで防災訓練を開催し、外国人50名に

50人は集まることが分かった。今度は100人だ!



2008年

親が来る保育園のクリスマス会に防災活動を組み込むことで、外国人100名に

地域を巻き込んで200人だ!!



2009年

保育園のクリスマス会に地域住民を巻き込むことで外国人150名(全体で250名)に

起震車があると通りすがりの人の興味を引いて呼び込みやすいんだよね。運動会は天候に左右されて起震車を呼びにくいからクリスマスにしたの。今回の炊き出しを給水車の水を使い、野菜は園児が育てたもので作った。いろんな形で人が絡んで、顔の見える関係ができるといいよね!

東海学区 多文化共生防災訓練と防災体験 防災を楽しく学ぼう!

2009/12/12 (9:00~12:00)
場所:東海学区 九番保育園園庭
主催:東海学区自主防災会
共催:港区多文化共生推進協議会
参加:約250名
(園児と園児の両親150名+先生20名+多文化共生30名+学区30名+ボランティア20名)



クリスマス会では、婦警さんが地震についての簡単な「防災クイズ」を披露。また親子でぬり絵をして、楽しく防災について学びました。



日本語とポルトガル語の両方で表記したのは、日本語でも覚えてね!というメッセージを込めて。子どもだけでなく、消防署の人もボランティアも、皆で楽しみながら大きな声を出せました。



非常時のために備えておいた方がいいものを見て覚えるゲームです。数分間で記憶した後、タオルで隠します。さて何があったかな? 子どもたちの顔が真剣! また、「これ何? どうやって使うの?」と興味津々。



紙面には載せきれへんかったんやけど、他にもいろいろ面白いものがあつたんやでー!



防災・防犯、安心なまちづくりのため、様々な団体に声をかけてきた結果、今回パトカーも参加してくれました。子どもたちは帽子をかぶってとっても嬉しそう。普段はなかなか体験できないですから!



部屋が揺れることにびっくりする親子。地震を知らない国から来ている人も、地震を知っている人も、揺れの大きさに驚いて大きな声を上げていました。



消火器の使い方もレクチャー! 炎を倒すとカエルが登場!



みんなの感想

- 来年も楽しみ。今度は何をするの!?
- 園児が栽培した野菜の炊き出しは素晴らしいアイデア。親も先生もみんなが温かくなった。
- 警察の防犯参加もあり、いろいろな応援が楽しい!
- 地震体験をした。こんな地震が本当に来たら大変だ
- 大人も、消防や警察、ボランティアもみんな一緒に楽しく学べる内容で、一体感がありました。
- いろいろなゲームや遊びがあって、楽しく防災が学べました。●自分の子どもが育てた野菜で作った豚汁で、おいしさも倍増!



早川さんの想い

防災訓練という堅い形ではなく、自然な集まりの中での防災や防犯、環境を考えていきたい。「輪(集い)・話(コミュニケーション)・和(楽しく)・環(みんなで参加・参画)、4つのわで、『まつりでまちづくり!』すこしずつ無理なく、広げてゆきたいな。



大きな団地に囲まれた保育園。パトカーの奥には起震車、その奥には給水車が並び、たくさんの人が集まって賑わいました。



初めて見る給水車。事前配布のチラシには「ペットボトル2リットルを持参」とありました。災害が起きたら1日1人3リットルいるんだよ、ということを知ってもらうためです。



外国の人には馴染みのうすい炊き出し。この日は園児たちが育てた野菜が入った豚汁でした。美味しさも倍増ですね。事前の呼びかけで、器とお箸を持参してくれた人もいました。

